主催者：
九州大学芸術工学部「デザイン実装論・演習」

協力：
九州大学未来社会デザイン統括本部
シンクタンクユニット

お問い合わせ：
ogata@design.kyushu-u.ac.jp

寄付の可能性

～人口減少社会における課題解決の構造
美術館のケースを例に

人口が減少し、社会が成熟している状況で、行政やビジネスが課題解決にアプローチしにくい構造を整理したうえで、寄付の可能性を willingness to pay という概念を用いて説明いただきます。その上で具体的な例として美術館の維持を例に、資金調達の考え方をお話しいただきます。



瀧島 勇樹
READYFORインパクト研究所代表　シニアフェロー

東京大学法学部卒、ハーバード大学公共政策学修士卒。2001年経済産業省において、インドなど新興国へのインフラ輸出政策の立ち上げと実施、中小企業金融政策、経済産業省の予算のとりまとめに従事。日本で開催されたG20デジタル大臣会合において、「Data Free Flow with Trust」「Governance Innovation」のコンセプトを策定。また、『NEXT GENERATION GOVERNMENT 次世代ガバメント 小さくて大きい政府のつくり方』（若林 恵編著）の企画に協力。2021年から デジタル庁参事官、デジタル行財政改革会議事務局参事官を歴任。2024年8月より READYFOR 株式会社に入社。現在、READYFORインパクト研究所代表・シニアフェローを務める。

オンライン
15:00～16:20

2026.11.30（月）

申込QRコード